

**Asian
Shipowners'
Association**



2019年5月28日
タイ・バンコク

第28回アジア船主協会総会 プレスリリース
Asia, Stronger Together (ともに成長するアジア)
＜日本船主協会事務局試訳＞

アジア船主協会(ASA)は、第28回年次総会をアセアン船主協会(FASA)の主催により2019年5月28日にタイ・バンコクで開催した。第28代会長(今次総会議長)のBhumindr Harinsuit氏(FASA会長)は、メンバー船協の出席者に対し歓迎の意を示すとともに、アジアがともに成長を続けるため、引き続き連携を強化することを呼びかけた。また、同会合では来たるべき将来を見据え、ASAの新たな常設委員会として海運若手幹部委員会(Shipping Young Executive Committee, SYEC)を設立し、ASAが次代に向けて歩みを進めることが決定された。

船員のメンタルヘルス対策

船員のメンタル面へのサポートは海運業界にとって大きな関心事項となっている。ASA船員委員会(SC)では、メンタルヘルス対策としてすべての船員が船上でインターネットを利用できる環境を整備することを提言する。

インターネットにより陸から離れていても家族や友人との繋がりを感じることができる。これらは特に若い船員を惹き付けるのに重要な要素となっている。

責任制限

ASA船舶法務・保険委員会(SILC)は民事責任条約(CLC)と基金条約(FC)の締約国であるフランスとスペインが条約に矛盾する決定を一方的に下したことに強い懸念をいだいた。そうした決定により生じる不確実性によって、両国とのトレードに要するコストは割高なものになりかねない。

ASA SILCはIMO条約における船主の責任制限の権利を否定する基準に関する統一解釈に向けた業界提案を支持する。この提案は既に35カ国からも支持を得ている。ASA SILCは統一かつ一貫した適用による補償体制の奏功により国際条約が維持されることを求める。

2020年（の燃料油硫黄分規制の強化）に向けて

2008年にIMOが海洋汚染条約における燃料硫黄分の改正（強化）を採択したことは、海運業界に好意を持って迎えられた。これは、業界自らが実用的かつ累進的に実効性のある（ゴールベースの）規則を管理することができた証左となった。来年1月1日の実施に向け、残り時間も少なくなってきた中で、ASA航行安全・環境委員会(SNEC)は、長い目で見て、やがて海運業界が新たな均衡を制定することができると考えているものの、残された時間で多くの作業を熟（こな）さなければならない。

幸いにも、今月中旬に開催された第74回海洋環境保護委員会の会議では、適合油の試験方法など業界が直面する種々の課題に対処できることが示された。

今後、残された期間で問題が発生することは自明であり、また、船主は2020年1月1日以降に直面し得る複雑な運用上の困難やリスク増加について懸念している。それでもなお、ASA SNECは、関係海事当局、IMOならびに関係団体との協調作業を保ちつつ、業界が将来に向けて突き進むことができると信じている。

自由貿易の堅持

ASA 海運政策委員会(SPC)は、メンバー船協に対し、深刻化する貿易摩擦と保護主義的政策の広がりに関する重大な懸念を改めて表明した。

輸入に関する制限措置やエネルギー資源、原材料輸送などの国際輸送に対する貨物留保政策は、海運業界のみならず持続的発展と世界経済の効率性に負の影響を与える。SPCは、自由貿易の原則と、ルールに基づく多国間国際貿易体制への支持を訴え今月中旬に発表されたASA, ECSA, ICSの3団体共同ポジションペーパー(global shipping sector position papers)の重要性を強調した。

香港条約の早期発効

ASA シップリサイクリング委員会(SRC)は、利用可能な適合ヤード数の増加に向け、香港条約の早期発効の必要性を再確認した。香港条約のみが地球規模で環境保全型のシップリサイクルを規制する唯一の手段である。ASA SRCは、本年に入りトルコ、オランダ、セルビア、日本、エストニア、マルタが相次いで批准したことを歓迎する。これら6ヶ国の批准により、香港条約の発効にさらに近づいている。

アジアは船舶の解撤・建造・運航の中心地である。それ故ASAは、地球環境保護に向け、条約の発効要件を満たす鍵である中国・インドに早期批准を強く呼びかける。ASAは定期対話を通じ南アジアのシップリサイクル協会の意欲向上に努めるとともに、南アジア諸国の可能な限り早期の批准に向け、シップリサイクル施設とその運営基準の改善を促す。

第 29 代 ASA 会長に、現副会長で豪州船主協会会長の David Parmeter 氏が、副会長にインド船主協会会長の Anoop Kumar Sharma 氏が選任された。（任期は 2020 年にダーウィン（豪州）で開催予定の次回 ASA 年次総会までの 1 年間。）

【本プレスリリースの問合せ先】

ASA 事務局長 Ang Chin Eng 氏

電話 : +65-6325 4737

Email : information@asa.org.sg / Website : www.asianshipowners.org

【ASA について】

・アジア船主協会(ASA)は、豪州、中国、台湾、香港、インド、日本、韓国の船主協会およびアセアン諸国*の船主組織によって構成されるアセアン船主協会連合(FASA)で構成される任意組織で、その目的は、アジア船主業界の利益促進。

*ブルネイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、シンガポール、タイ、ベトナム

・当該年次総会以降、次の年次総会までの間は、以下 5 つの常設委員会により継続的活動が行われている。

- 船員委員会 (SC : Seafarers Committee)
- 船舶保険・法務委員会 (SILC : Ship Insurance and Liability Committee)
- 航行安全・環境委員会 (SNEC : Safe Navigation and Environment Committee)
- 海運政策委員会 (SPC : Shipping Policy Committee)
- シップリサイクリング委員会 (SRC : Ship Recycling Committee)

・ASA 加盟船主および運航業者は、世界商船船腹の約 50%を支配・運航していると推定される。